

# 飲水思源

町長 松岡市郎

米(Come)の地産地消は幸せ(Happy)を呼ぶ!

町民の皆さん、あけましておめでとうございます。

昨年は年初めから円高、原油高でガソリンと灯油などの値動きに一喜一憂し、振り回された感が大変強く残っている。あの値動きは「一体なんだ? (大山鳴動してねずみ一匹)」と言いたくもなる年だった。

年末が近づくとつれ、世界不況の風が強く吹き荒れてたが、唯一、「福ねずみ」の年だと感じたことがあった。

「子の年に不作なし」の名言(!? )どおり未曾有の大豊作。『幸せ(Happy)がやってくる(Come)、Happy Come (Happyカム)、ハッピーCome(米)』と実感できたことだ。議会の同意を得て、農協とともに全戸、福祉灯油対象者に対して大豊作記念米やハッピー米の贈呈を決めたのは、不況を乗り越え、より一層元気を出してほしい、地産地消により「幸せがやってくる」Happyy・Comeの願いが込められている。

今、国際的な関心事は地球温暖化、人口増加地帯における飢餓救済、水不足と食糧自給率向上、エネルギー問題である。

では、地産地消によってなぜ「幸せがやってくる」のか。

第一には「地場で生産されたも

のを食するのが健康に最も良い」と言われ続けていること。学校給食では地場産米を供給し、極力地場産品の消費に努めてきているが、住民の皆さんも健康増進のために持続して地消に取り組んでほしい。健康であることは幸せ、ハッピーなことだ。

第二は、誰でもできる国際貢献。地消は他県米の移入量を減らし、米消費の純増は他の穀物輸入量を減らすことが出来る。これは流通コストの削減にもつながって二酸化炭素発生を抑え、地球温暖化防止にも貢献する。

穀物等の輸入は間接的な水の輸入だともいわれる。世界で不足する水資源確保、そして水不足地帯や人口急増地帯の飢餓防止などにも大きく貢献できる。世界に貢献できることは幸せ、ハッピーである。

地場で生産されるものは極力地元で消費し、第1次産業に元気がでることが、第2次、3次産業とともに日本全体の元気回復に大きく貢献するものと確信している。米(Come)の地産地消が、Happyy・Come(幸せがやってくる)、ハッピー米”となるようにに共益の視点で取り組みたいものだ。幸せがやってくるHappyy・Comeの年であることを願う。

## 短歌

歳月に癒されてゆく悲しみを初雪ちらちら舞うひと日なり  
卓上に拵げし地囃のひとり旅夢はてしなくたわむれている  
苦勞せしことなど見せず弾き語る甥の歌声胸に沁みこむ  
一本のつるばら空を招きおり白き雪もて風ぞ吹きぬく  
身に余る幸せなどは望まねど生きゆく道の何と険しき  
七人の子を育てたる母なれば校長にもせし六十三才で没す  
吾が庭の庭師の技はきわまり冬を迎える雪吊りのさま  
老いの身に寒さひしひし伝う夜は綿入れはんでん夫に着せやる  
函館にさよならと我家へ帰る雪はげしくて追わるることし  
不可解な無惨な事件報らさるる冬のはじめの朝餉の時に  
小春日に友ら集いてさりげなく過去を語りぬ一日みじかし  
流れには逆らうべきもなきものよ夕ひそかに手鞆を洗う

## 俳句

除夜の鐘 生くべき年を 音とする  
初御空 無心で折る 深呼吸吸  
樹間より まず一条の 初日かな  
若水を 両手いつばい 飲みほせり  
悠然と かまえていたき 年明けける  
初日の出 自分探しの 一歩かな  
内に満つ 去年と今年を 隔つもの  
初鏡 背筋伸ばして 紅をさす  
いくつめの 一里塚やら 今朝の春  
初空に 山もひときわ 凜として  
夢を持ち 三年日記 買ひにけり  
縦糸に 紡ぐ横糸 去年今年  
未知の日々 重ね委ねし 初暦  
初湯して 五臓六腑を いつくしむ

那須 喜美  
瓜生 昭枝  
松倉 和子  
嶋崎 ミエ  
笹田 富士子  
岡澤 千ズ子  
矢沢 ますえ  
永江 栄子  
清水 千ヨ  
宮坂 敬子  
中田 治子  
井山 一文  
秋山 深雪  
杉山 ひろのり  
徳光 吐苦  
杉山 りつ  
山口 佐知子  
高瀬 潤  
石澤 清宏  
澤田 久美子  
松山 蓉子  
三島 智  
長谷川 きみゑ  
小林 露葉  
青野 公花  
宮坂 紫雲